

向島の催し、ニュースは
愛隣館研修センターへお
知らせ下さい。

向島・愛隣館研修センター ニュース

社会福祉法人イエス団
愛隣館研修センター
〒612 京都市伏見区向島二の丸町151
TEL 621-3849
FAX 621-1579
発行 平田 義
編集 惠 大一郎



「向島を、みんなの手で、だれもにとつて住みやすい街にしていきたいと思います。」
今福さん

向島を「障害者」にとつて住みやすい街に

私たちの住む街、向島は、「障害者」用の住宅が沢山あり、「福祉の街」であるように言われています。しかし、向島への玄関口である近鉄向島駅に車椅子に乗った人が、安心して利用できるエレベーターがなかったり、重度「障害者」の人たちへの在宅ケアが充分であるとは云えなかったり、まだまだ、問題が山積している状態です。

どんな「障害」を持っている人も、その人の「障害」にあった形で、能力が発揮でき、活き活きと楽しく生活している向島をぼくは夢想します。

例えば、向島に「『障害者』自立応援センター」みたいなものがあつて、どんなに重度な「障害」を持っていても、その人の必要に応じて手助けを受けられることが出来、いつまでも自立の意欲を失う事なく、活き活きと生活を創っていくなら、どんなにいいだろうと思ふところですね。

ところで、「障害」の程度によって、もちろん人によって様々なと思うんですけど、大切なのは、「障害」が重すぎて身辺自立が出来ないという人のために、基本的な身辺自立に対する介助が受けられるようにするのが、今とても必要になってきているということではないでしょうか。

というのも、そうすることで、重度「障害者」もここ向島で活き活きと他の市民と同等に生活していけると思ふからです。

また、近年の「障害者」のガンバリで、どんなに重度な「障害者」であつても、身辺自立が保証され、様々な社会参加への手立てが保証・整備されてくると、様々な能力を発揮できるということが分かってきました。

バラバラな個人が「障害者」を通して、つながっていくことも一例ですし、様々な道具や生活上の工夫という新しい“文化”を創っていくということも出来るでしょう。

しかし、このように述べてきた夢想としてのバラ色の向島に対して、現実の生の向島は、もちろんそのような状況ではありません。

当然、そんなバラ色の向島は、現実的ではないと思える人も沢山いると思いますが、ちよつと待つてください。

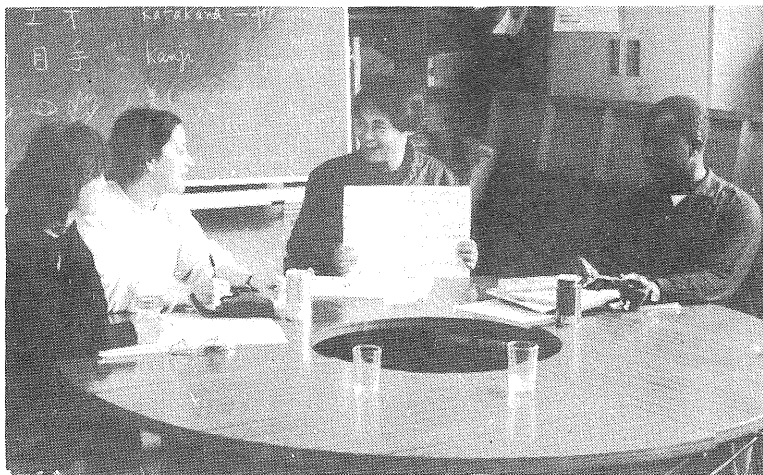
どのような夢想も、夢想で終わるとは限らないのです。私達、向島に住むものが集い様々な夢を語り合い、それを現実化していくために一歩でも歩み始めたなら、それは決して、夢想に終わるとは限らないでしょう。

五年先、十年先の向島を私達の手で共に創っていくまじ



階段しかなく、車椅子では利用しにくい向島駅

楽しく学ぶのコミュニティ



現在、巷ではしきりに「国際化」がうたわれています。しかし、その中身はというとカネやモノに重点がおかれ、その中で、私達が、どう行動していくべきなのかがはつきりとは見えてきません。当センターでは、自分たちの足場をしっかりと固めた上で「国際化」を考えようという思いから、幾つかのプログラムを行っています。今号では、その内の幾つかを、皆様方に紹介したいと思えます。興味のある方は、是非当センターの方までご連絡ください。

J E V 日本語教室の紹介
八八年に向島で発足した海外教育協力隊の J E V は、愛隣館研修センターでも、毎週土曜日、午前10時〜12時、無料の日本語学級を開いている。すでに、韓国、中国、日本、米国、タンザニア、ザイル等の国の人たち10名が修了。現在、ガーナ、カナダ、英国の人たちが受講、地域の国際交流の原点になっている。関心のある方はどうぞお手伝いください。お待ちしております。

J E V 日本語教室

地域の中の

国際交流

《参加者の声》
現在、日本語教室に通う生徒は三名。
ケネスさん(三五才)は、ガーナからの男性で、上京区のレストランでコックとして働いておられます。クラスの感想を聞くと、「とてもおもしろいです。」と日本語で答えて下さいました。
残る二人は、文部省の交換プログラムで京都の公立高校で英語を教えているリサさん(二三・イギリス)、ルイスさん(二五・カナダ)です。二人とも、「土曜日の朝が来るのがいつも楽しみです。山本先生はとてもやさしいです。」と話していました。
尚、J E V では、日本語を教えてくださるボランティアの方を募集しています。おもしろそうだなと思う方は、一度のぞきにきて下さい。

去る十月十三日(土)、国内外で識字活動を推進する、海外教育協力隊(J E V)主催で、第三回「開発教育」って何だろう会が開かれました。先進国主導で繰り広げられる、第三世界の開発の在り方を見直し、双方にとって、よりよい開発の在り方を考えていこうという趣旨で、二年前に始まってあります。
今回は、「フィリピン民衆の現況」について」という題で、今夏、「フィリピン民衆交流ツアー」(アジアセンター主催)に参加された

第3回 「開発教育」って 何だろう会



山本氏(手前・後向き)の話熱心に聞く参加者

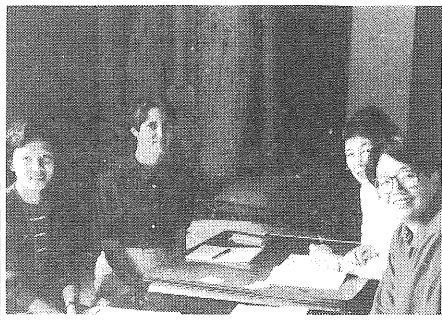
J E V の代表の山本忠義氏の発題を受けた後、約十名の参加者が、今後どういう形で民衆同志の連帯が可能かということを中心に討論がもたれました。



ただ今、当センターでは、すぐに役立つ日常英会話教室を、毎週月曜日の十時から十一時まで行っております。講師は、アメリカから来られているバーバラ・クレインさんという方で現在は淀にお住まいです。現在、約五名の方が楽しく学んでおられます。英会話に興味のある方は、一度お越しください。参加無料。

【参加者感想】

「肩が凝らずに気楽に出来てとても楽しいです。」
「クレインさんが来年三月に帰られてしまうと終わってしまうかもしれないので少し淋しいです。」
「英語と日本語の両方が勉強できて非常にありがたい。」
(台湾からいられている方)



ぼくが調べた 向島の歴史

連載第5回 柏木正行

古代、向島の姿は、巨椋池（おぐらいけ）と呼ばれる巨大な遊水池でした。渡来人による開発を経て、巨椋池周辺は、どんだん姿を変えていきました。さらに、巨椋池は、桂川・宇治川・木津川との合流点にもあたるため、水上交通の要所となり、人や物の中継地として賑わうようになっていきました。又、一四八五年には、守護大名同志の対立を蹴散らし、八年間にわたって、自治体制を、この山城の地に確立することになった山城の国一揆が起こりました。

さて、巨椋池湖岸の地形が大きく変貌するのは、豊臣秀吉が天下統一の一環として行った文禄期（一五九二年）の六年の、大土木工事の時でした。

秀吉の大土木工事

秀吉は、伏見城の築城と並行して、様々な土木工事を行い、民心の把握に努めました。宇治川を巨椋池から分離して丘陵のふもとを通るように付け替え、三栖から納所まで堤を築いて本流を淀に導き、城郭近くに御船入を設け、城下の外堀に宇治川の分流を結んで河港を建設して水運交通の便をはかり、さらに、巨椋池を分断する榎島堤を築いて奈良に向う新大和街道を敷設するなど、伏見の開発に心を砕いたのでした。その結果、伏見は、安土・桃山時代から江戸時代を経て、明治時代の半ば頃まで、京都と奈良、浪速とを結ぶ交易の中継地として重要な地位を占めていました。しかし、明治の半ば以後、交通の中心が、水上から陸上輸送に切り替えられていく中で、水上交易の中継地としての伏見の役割も、相対的に低下せざるを得なくなつたのではないのでしょうか。

も、そうした認識に基づいて行われたと思えますが、では、具体的にどのような開発が推し進められたのか、それについて考えてみたいと思います。（次号へ続く）

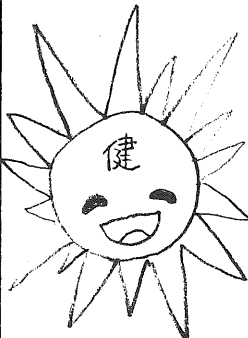
クリスマス 献金のお願

向島地域の様々な人々にご利用頂き、喜んで頂くことを目標として歩んでまいりました愛隣館研修センターも、今年度で、満十年をむかえました。この間、色々な形で、皆様方にお世話になりましたことを、改めてお礼申し上げます。

さて、センターでは、これからの活動を、より一層充実させ、地域のニーズにも応えていくために、クリスマス特別献金をお願いしたいと思っております。

今後、センターでは、より多くの方々にご利用して頂くことを目的に、生活センターの設置・運営を目指して、運動を展開していきたく考えております。又、あわせて、「障害」を持った方々、お年寄りの方々などが、気軽に、安全に集えるように、「エレベーター」の設置も検討したいと思っております。

クリスマス特別献金は、このための基金の一部にしたいと考えております。目標額は百万円です。どうぞよろしくお願いたします。



のぶみ先生 の健康教室

武澤信夫(医師)

現在、四十歳代、五十歳代の心臓病・脳卒中が増えています。特に、高コレステロール血症、肥満、糖尿病などを抱えている働き盛りの人が、タバコ、アルコールの多飲、過労などによるストレスによって発病しています。心臓病や脳卒中の中で、動脈硬化で血管が細くなって、詰まる病気が狭心症・心筋梗塞・脳梗塞などといわれるものです。

また、同じ事態が小児の間でも進行しています。“小児成人病”といわれています。“小児成人病”である高コレステロール血症、肥満、糖尿病などが徐々に増加してきています。特に、動脈硬化の原因となる“小児成人病”は、三十歳代四十歳代になつたときに、心臓病などの大きな原因にもなると考えられています。

工作教室

トンカチ 向島教室

★自分で作る楽しさを体験
何でも木切れが自分たちの手で、おもちゃに変わっていくとき、買ったもので遊ぶだけでは味わえない「何か」を、子供達は味わうことでしょう。

★こんなものを作ります
たこ、こま、竹馬、竹とんぼ、飛行機、ヨーヨー、水鉄砲、ゲームなどなど、いろんな楽しいものを作ります。

★要項
日時：毎週火曜日 PM2時～4時 年長幼児、小学1,2,3年
PM3時～5時 小学4,5,6年
場所：当センター(☎621-3849)
月謝：4000円+材料費…幼～小3は500円
小4～6は1000円
(兄弟割引 十一人につき500円引き)
指導：松島洋一
(元中学校美術教諭。現在木の玩具デザインを本業とする。日本おもちゃ協議会会員。日本おもちゃデザイナー協会会員。)
連絡先：伏見区桃山伊賀67-1 桃山伊賀園地1-209 ☎621-4088 又は、当センターまで

《イベントのご案内》

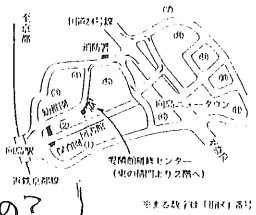
第5回 向島おらたの 伏見はんとんまつり

11月18日(日)

ごぜん11:00～ごご4:30

向島・愛隣館研修センターにて

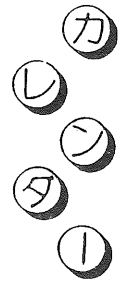
テーマ
「即位の礼・大嘗祭」
を考える
—なんでそんなお金かけんの?—



- プログラム
- 11:00～1:30 バザー(無農薬野菜・お漬物等) モギ店もありません! 基本におろく・コンサート(交遊中) ビデオ「木を植えた男」(ア・カ)他 パネル展(ランラン・おらたのまつり)
 - 2:00～4:30 パネルディスカッション 講師・加島京介護士 / 他 パナール多数

主催・おらたの伏見はんとんまつり実行委員会

連絡先: Tel 075-621-3849



《実行委員会より》
向島に住む人々と、天皇制について共に考える機会を、始めました。はんとんまつりも第五回目を迎えました。今年からは向島はんとんまつりを、伏見はんとんまつりに名前を変え、より多くの人々と「即位の礼・大嘗祭」について考える集いを計画いたしました。ぜひ、お集まりに話したい。是非、お気軽にお立ち寄りください。

十二月十七日(月)午前十時於当センター。※今年度のクリスマスでは、ラテン・アメリカの先住民の歴史等について学びの時を持ちます。クリスマス献金は、ポリビア・ブラジルの先住民の子供達へ送られます。
◇年末大掃除◇今年もセンターでは、恒例となつていきます年末大掃除をにぎやかに取り行います。この年中行事をすまざねば年が越せないという方は、是非、お手伝いをお願いいたします。日時：十二月二十二日(土)午後三時より終わるまで。
◇年末・年始休館日◇十二月三十一日より一月四日まで。一月五日より平常通り開館いたします。